

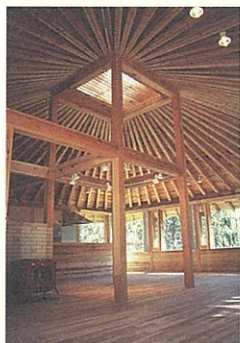
## 省資源型住宅の提案

今、環境負荷の少ない建築が求められています。環境負荷の少ない建築とは、製造時のエネルギーが少なく、サステナブル（持続可能）であること。できるかぎり長寿命化を図り、その建材はリサイクルできることや廃棄の際もその処理が容易であることや地球温暖化の抑制のためにCO2をストックできることを前提とします。そのためにはどのようなことに配慮しなければならないのか？今、できることをここに提案します。

### 100年つかうために

地球環境に負荷を出来るだけかけないようにしなければなりません。そのためには住宅の長寿命化を図り、現在約30年といわれている木造住宅の寿命を少なくとも100年に伸ばし、住宅を「使い捨て」する考え方を考え、社会的資産としていかなければなりません。

『住宅は20年か30年もてば良い』といった考えで住まいづくりを考えている人は、今すぐ考えを改める必要があります。それは膨大なゴミを生むための準備をしていることとかわりありません。さらに20～30年後、建物の解体処理費用も膨大な金額になり、使えない建物の建つ土地は不動産の価値が半減している可能性もあります。これからは「健康で少なくとも60年以上（二世帯）は保つ住まいづくり」が大切です。



### 建物の環境と設備

屋根材、外壁材はできるだけ耐候性のあるものを選びましょう。

屋根は地元で伝統的に使用され、風雪に耐えてきた実績のある瓦屋根が理想的です。耐震壁がとれないなどの心配があるようでしたら、耐候性の強い金属製屋根も良いでしょう。人工スレート系の屋根材は意外と弱く、メンテナンスを頻繁にしないと劣化が早く進み、20年ぐらいで使えなくなります。

また、雨漏りは構造部材である木や鉄の腐れの原因です。外壁はメンテナンスが前提。耐震性を考えて、基本的に構造壁の量が縦横均等に必要以上あることが大切です。総二階建ての場合、隅に構造壁がきちっととれているかどうか大切なチェックポイントです。

メンテナンス間隔は違いますが、60年以上の耐久性を求めるならメンテナンスは重要です。住まいを長く、大切に使う事は資源保全のための基本です。

### 気候風土に合わせて温熱環境を計画

日本の気候は、地域によってかなり異なるのはご存じの通りです。地域に合わせた温熱環境計画を立てるには、その地域の特徴を知る必要があります。

一般的に日本ではどの地域でも夏の温暖期が多湿です。温暖期の湿度対策が、建物の耐久性にとって日本では大切な課題です。つまり湿気を好むダニ、カビ、シロアリ対策。それにクーラーで冷やされて外壁が結露することへの対策です。

次に冷暖房をどのように考えるかというのですが、暖房や冷房の必要度は家族や地域の特性によって異なることを忘れてはなりません。オールジャパン的な発想ではなく、地域と家族に合わせた温熱環境対策が必要なのです。

### 冷暖房は機械に頼るのをできるだけ控える

開放型暖房機器（ガスストーブや石油のファンヒーター等）は有害な燃焼ガスや水蒸気が室内に大量に排出されるので使用はやめましょう。

最近の気密性の高い住宅では、必ず煙突をつけるかダクトを使って屋外へ直接排気するようにしてください。エアコンの使い過ぎは、健康によくないばかりかエネルギーの無駄遣いになりやすいのでやめましょう。エアコンによる暖房は室内空気の温度を上げる方式ですが、床の粉塵を巻き上げ、空気乾燥もうながすので長時間の継続使用は避けるべきです。

外壁や窓から熱が逃げる住宅の構造では、効率も極端に悪くなります。クーラーとしての使用では機器内のカビが飛び散り、冷風は身体に負担をかけるなどいいことはありません。できるだけ使用を控えましょう。

### 太陽と風と緑を利用する

冬は太陽熱、夏は自然の涼気をできるだけ利用します。

夏の直射日光は遮り、冬の低い日光は室内に採り入れる。これは冬、比較的日射量の多い日本での住宅設計の基本です。これだけで、寒冷期の人工エネルギーによる暖房は節約できます。蒸し暑い地域では、自然換気、夏の夜間涼風取り入れ、日射しの遮断などの工夫が必要です。

伝統的な工夫は各地にあります。すぐエアコンに頼るのではなく、そういった昔からの建築的な手法を見直しましょう。

地窓、高窓、越屋根、無双雨戸、坪庭、通り庭、土間、吹き抜け、打ち水、木陰の利用、すだれ、よしず、外壁緑化など様々です。敷地緑化、建物緑化も方法の一つ。土と緑が建物の周囲にあるだけで、夏、建物周囲の気温はかなり下がります。昼間や夜間の涼気取り入れにも有利です。

### 調湿性のある材料を利用する

ムクの木材や土壁は、過激な湿気を吸ったり乾燥時には吐いたりする調湿性能が高い建材です。湿気の多い日本では昔から、土や木材が気候風土に適しているということで使われてきました。

